

服飾文化

いらすとや

本

Ⅲ





17世紀イングランドの女優







古代エジプトの踊り子









20世紀初頭のシャムの踊り子





ヴィクトリア朝の
鉱夫の少女



■あとがき

今回は前作までと比べヨーロッパが多めとなりました。

というのも、19世紀イギリスでヴィクトリア女王が即位するまでは西欧においても乳房や乳頭の露出は悪いことではなかったようです。

女王や上流階級の女性から労働者階級の農家の娘まで、意図的かどうかに関わらず胸の露出は問題ではなく、ファッションの一部でさえありました。時代により流行はありますが、おへそまで見えるほど低く前がカットされたドレスやくしゃみをする度に胸が露出するドレス等がフォーマルな場で平然と着られていました。流行に敏感な女性は乳頭にルージュを塗ることもあったそうです。17～18世紀の絵画では貴族の肖像画や風俗画でそれらの衣装を多く見ることができます。

一方で、18世紀を通して足首を露出することは公然猥褻であり地位を貶める行為だったというのだから面白いですね。

現代の我々の価値観は、ヴィクトリア女王の統治によってもたらされた文化・社会・道徳の変化を引き継いでいるものとされています。

「ヴィクトリア朝の鉱夫の少女」は19世紀イギリスで社会問題となった鉱山で働く少女を描いたものですが、その苛酷な労働環境よりもむしろ腰まで裸になって働くその姿がスキャンダルとなりました。

■奥付

発行日：2022/12/30

発行サークル：Fusionz

発行者：ハイパーバトルチンパンジー

印刷：株式会社グラフィック様

pixiv ID：3125744

Twitter：Kanden_sky

無断転載・無断複製禁止



*イラストは衣装を厳密に再現するものではありません



fusionz